

B-1 指導上の工夫点

①題材の精選

○生徒も必ず目にしたことがある「葛飾北斎富嶽三十六景」を選定

巨大な波の彼方に見える富士山。画家ゴッホが弟テオに宛てた手紙の中で激賞し、フランスの作曲家ドビュッシーが仕事場に掲げ、交響曲『海』を作曲したなど、国境を越え芸術家の靈感を刺激した逸話に事欠かない「富嶽三十六景」は、北斎の作品の中でもとりわけ広く親しまれている。三十六景であるが全部で46図あり、全てが有名な作品というわけではないが、「凱風快晴」「神奈川沖浪裏」などは広告や様々な媒体で登場することもある。作品の認知度は相当に高いと思われ、生徒にとっても親しみやすさという点で適していると考えた。

○「赤富士」による自然現象と版画表現との比較

富士山は夏から秋にかけての早朝、朝焼けに山肌を赤く染めることがあり、それは通称「赤富士」と呼ばれている。山肌の火山岩の性質とも言われるが、天候や水蒸気等の条件が揃わないと見ることができない。朝日を受けて燃えるような朱に染まり、今まさに明けようとする大空に凜然とそびえ立つ北斎の富士は霊峰の名にふさわしい神秘性をたたえている。特に「凱風快晴」では、空一面の翳雲と山容のみという単純な構図だけに、臨場感は一層高まり、画面には霊峰の名にふさわしい気高さがあふれている。

○「凱風快晴」の初摺りと後摺りの比較と分析

ひとつの版木で摺るうちに、版は磨滅して品質のよい版画ができなくなる。よい状態で摺ることができる最初の200枚ほどを「初摺り」と呼ぶ。初摺りは画工と版元の監視下で行われるため、画工が当初意図した仕上がりに最も近い。これに対して、初摺りが完結した以降に摺られたものを「後摺り」といい、版元の都合や時代の好みに合わせて変更が行われることもあった。「山下白雨」の後摺りに、裾野に松林の描かれているものがあるが、これは北斎の意図に無関係の例だとされている。「凱風快晴」のように、後摺りのほうが赤く、「赤富士」の通称のイメージに近い例もある。

生徒の反応では、初摺りのほうが人気が高く、理由として色の変化が微妙で自然な感じであることなどを挙げる生徒が多く、後摺りのほうが好きという理由には色が鮮やかであることを挙げる生徒が多かった。

○現代版画「鈴木英人の作品」との比較

鈴木英人は1971年頃より広告デザインを手がけ、デザイナー、アートディレクターを経て、1980年イラストレーターとしてデビュー。山下達郎のレコードジャケット、FMステーション誌のカバーデザイン等が大ヒット、名実ともにNo.1イラストレーターの座を獲得する。以後、商業デザインの世界にとどまることなく1985年「EAST ALBUM」のタイトルで、版画(リトグラフ)30作品を、東京と大阪の5カ所の画廊で同時に発表。現代アート第一人者としての地位を築き上げる。以後、精力的に版画作品を制作発表し現在作品数は250点を超えている。

英人作品の特徴は鮮やかな色彩とリアルな描写にある。作者は取材の中で自己の感性に基づいて、写真によって風景を切り取り、切り取った画面を自己のフィルターを通して再構成する。その際、浮世絵との共通表現とも言える黒の輪郭線を効果的に生かすとともに、非常に鮮烈な色彩表現をするのである。北斎が自己の感性をもとに形や構図のデフォルメを行ったのに対し、英人は形のうえではリアルな表現を追求し、色彩において極端なデフォルメを行ったと言える。また、北斎が木版画であるのに対し、英人はリトグラフやシルクスクリーンを技法として使用していることも色彩上の違いの要因となっている。

②作品の提示方法

○ICT機器（ソフト面：画像表示ソフト、ハード面：電子情報ボード等）の活用と工夫

今回の授業では、画面の大きさを自由に変え、複数の画面を同時に提示することが可能な画像表示ソフトを活用した。その機能を利用し、「凱風快晴」の初摺りと後摺りを比較したり、類似テーマの比較として北斎作品と英人作品との同時比較を行ったりした。生徒にとっては視覚的にわかりやすいものになったと思われる。また、ソフトの拡大機能を利用し、作品のディテールを拡大して投影することで、生徒から出た意見を他の生徒に効果的に理解させることができた。

ハード面では、電子情報ボードやプラズマディスプレイの活用が効果的であった。プロジェクターが輝度においてやや劣り、室内をそれほど暗くできない場合は画面が薄くなる傾向があるのに対し、大画面でも明るさや鮮やかさがそれほど落ちないという長所がある。また、PCとの相性のよさも今後の活用に期待できるであろう。

③作品資料の活用

○作品集等の書籍資料を活用した図書館との連携

学校図書館と積極的に連携を図り、版画作品集の収集を依頼し、授業での活用を行った。学校図書館だけでは蔵書数に限界があるため、県立図書館や市立図書館の協力も得て、書籍を集めてもらった。昨今、インターネットによる検索も利用されているが、利便性という長所はあるものの、豊富な情報量や図版の美しさ、何よりもじっくりと対象を観察する行為は書籍には及ばないと言える。美術の鑑賞では本物に触れることはもちろん大切だが、見る経験として書籍の図版をまず見て印象づけ、さらにその後に本物を見る経験が加われば理想的であろう。気軽に多くの作品に触れる機会を設けることが目的だったのだが、生徒にとっては初めて接する作家も多く、よい機会になったと思われる。

●授業に使用した書籍

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ・ 浮世絵名品 500選 | 神奈川県立博物館 |
| ・ 原色日本の美術 17 浮世絵 | 小学館 |
| ・ 原色日本の美術 24 風俗画と浮世絵師 | 小学館 |
| ・ 在外日本の至宝 7 | 毎日新聞社 |
| ・ 日本版画美術全集第 2、3、4、5 巻 | 講談社 |
| ・ ロートレック | 美術出版社 |
| ・ 現代世界美術全集 9 巻 | 集英社 |
| ・ 現代日本の美術第 12、14 巻 | 集英社 |
| ・ 西洋絵画の巨匠 9 | 小学館 |
| ・ 棟方志功作品集 | 東方出版 |
| ・ 鈴木英人全版画作品集 | ファイアエンジンファクトリー |
| ・ 世界名画全集 22 | 平凡社 |
| ・ Art Box In Japan 5-2、6-2、7-2 | Art Box インターナショナル |
| ・ 駒井哲郎 | 玲風書房 |
| ・ 清宮質文 | 玲風書房 |
| ・ 日本美術館 | 小学館 |
| ・ 西洋美術館 | 小学館 |
| ・ 現代の美術 4 | 講談社 |
| ・ 日本美術全集 22 風俗画と浮世絵 | 学研 |
| ・ 世界美術全集 9 ロートレック | 集英社 |
| ・ 西洋絵画の巨匠 9 ウォーホル | 小学館 |